

## 創造的で懐かしく、多世代が共存できる場所—『Third School』

応募チーム名：仁愛大学早川ゼミ「3PEACE」 自治体：福井県越前市

### (特徴)

中心市街地の商店街で暮らす人々と世代や国籍の異なる多様な市民がお互いのノウハウを共有し、相互に教えあい学びあう場所として、商店街全体をゆるやかな一つの学校と見立てて、5つの教室＝コミュニティスペースを作っていくというもの。コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された心地のよい第3の居場所のことをサードプレイスというが、これをヒントに Third School を発案した。

仕組みは、①通年型で毎週日曜日 9:00～15:00 に開講、②ターゲットは越前市民であるが、特に中心市街地の高齢者は利用者と提供者の2面で重要、③具体的には空き店舗などを利用した次の5つの教室＝コミュニティスペースを開講しようというもの。

音楽室：中央広小路商店街 「Rag time Classics」	共通の趣味を通し、常連さんが集う場所となっているこの店を活かし、賑わいの拠点とする。様々なジャンルの音楽やライブ、カフェを楽しむだけでなく、展示等も行う
情報室：中央広小路商店街 「仁愛大学駅前サテライト」	若者・学生が、授業等の枠組みをこえて、自分たちが保有するリソースをコミュニケーションにより、高齢者に提供して、情報格差問題やデジタルデバイドを解消。
家庭科室：善光寺通り繁栄会 空き店舗を利用	高齢者が多いことを逆にとらえ、根付いてきた・眠っているモノト（郷土料理）を伝承できる人が大勢いるからこそ、なくさずに多世代に受け継いでいける。
図工室：総社通り商店街 空き店舗を利用	職人や専門家が越前市の伝統工芸品等の体験型セミナー等を行うことで、その魅力を知ってもらい、伝統的工芸産業の発展にもつなげる
文化室：武生本町通り繁栄会 空き店舗を利用	外国人（ブラジル人）と地域の人々がうまく共存できる文化やマナーを教えることで、ローカルな関係が成り立つ。

### (アドバイス)

1. Third School に掲げてある5つの教室＝コミュニティスペースは学生が越前市の地域の特徴と他世代や外国人移住者などを念頭においてそれぞれに大変魅力的です。
2. これからの課題は、市役所の協力を得て、関心のある市民グループと手をつなぎ、5つの教室＝コミュニティスペースのうち、一つでも良いので、実現に向けて努力していただけたらと思います。とりわけ、最終公開審査の際に、情報統計課長が触れておられた越前市としても力を注いでいる外国人移住者との街ぐるみの交流に力点を置いて、市民グループや「まちづくり会社(株)」と連携していかれることもよいかと思えます。これにより、学生自身もやる気のある市民とのふれあいでこれまでにない経験ができますし、ブラジル人などの交流で多文化共生の機会が得られることにもなると思えます。
3. 仁愛大学としては、参加したゼミ生が2. の市民との連携を図ろうとする際には、仁愛大学駅前サテライトの活用など可能な限りのサポートを期待しています。
4. 市役所の中で情報統計課の果たす機能にオープンデータを契機に市民との接点が生まれたと思いますが、それをさらに充実させて、市民と関係課のつなぎ役のみならず、データ分析やデザイン思考の庁内の指南役の機能も新たな機能として磨いていかれることを望みます。